

CBAP を取得しなくてはならないと思い立ってから約 2 年間、ようやく CBAP の資格を取得することができました。お役にたてるかどうかわかりませんが、後に続く受験者の皆様のために 2 年間の体験を書きます。

【出願動機】

24 年間もの長い間、DEC、Compaq、HP という外資系のコンピュータメーカに勤めていて、DEC に入社した 85 年ごろに当時の通産省の情報処理技術者試験の特種を取得して以来、この業界の試験からは、ずっと遠ざかってきた。会社が傾きかけた 90 年代に中小企業診断士の資格を取ろうと通信教育を始めたが、経営管理や財務会計など、それまで自分の知識領域になかったものに関しては興味深く勉強できたものの経営情報管理という分野に入り、コンピュータの周辺機器として、パンチカードや紙テープ、磁気ドラムなど、当時としてもすでに博物館にでも行かなければお目にかかることのできないような古臭い単語が出てきて、教材が全く更新されていないことに愕然として学習意欲を失った。その後は、資格試験をとるよりも最新の経営理論や情報技術に触れることの方が重要と思い、経営情報学会やシステムダイナミクス学会などで活動し、研究者と交流して最新の情報に触れるように努めてきた。

流れが変わったのは、2008 年。早期退職プログラムの適用対象となり、できるだけ早く生活の基盤を立ち上げなければならなくなった。これまでは会社のブランド力を利用することができたが、これからそれはできない。となればそれに代わるものを持たなければならぬと考え、当時、注目していた BABOK の認定資格である CBAP を取ることにした。

【出願】

最初のトライは、2009 年 6 月。右も左もわからない中で Web からデータ入力して Application を提出した。業務経験はかなりあると思っていたし、経験時間も 7,836 時間申請できたので、まず大丈夫だろうと思っていたら、1 ヶ月ほどして、*Based on the information outlined in the Business Analysis Body of Knowledge (BABOK) v2.0, we have deducted hours for non-BA experience in your project information.* と書かれたメールが来て、6850.39 時間に時間を削られて、不合格になってしまった。3 ヶ月後に再アプライできると書いてあったが、この当時の自分は、日銭稼ぎに苦しんでいた時期で、とてもじっくりと再挑戦できるような状況ではなく、あつという間に時間が過ぎて行った。BA 育成コースの研修講師やコンサルティングをしながら生活を立て直し、再挑戦できる余裕ができたのは、2011 年の 5 月だった。この時には、伊藤さんや庄司さん、その他の合格者の皆さんの合格体験記も読むことができ、出願のコツというものが分かってきたことと、この間にコンサルティングも何件かこなしてきたので経験時間も増えて、エクセルの表でプロ

プロジェクトごとに BABOK の work experience の項目を整理して時間を積算し、9,080 時間で申請することができた。

2 週間ほどして、アプリケーションが Approve されたというメールがきて、CBT の受験可能となり、受験勉強をしなければならなくなった。最初のトライの時に All-in-One CBAP Exam Guide という本を一通り読んでいたが、表面的には、2.0 に対応しているように見えるもののどこかしっくりしなくて、2.0 に完全対応した受験用の本が欲しいと思って、インターネットで検索して見つけた Sample EXAM Questions という本を取り寄せたが、これが完璧な 1.6 対応の問題集で受験には役に立たない。

困っていたが、そんな頃に Facebook の友達候補に伊藤衡さんの名前が出てきて、どこかで聞いたような名前だなと思っていたら日本人最初の CBAP 合格者と同じ名前であることがわかり、友達リクエストを出したところ、彼は、私が DEC 出身者であることを知ってコンタクトしてきた。彼も DEC 出身者で、旧 DEC の人は、お互いが DEC 出身者であると分かると、主君亡き後の赤穂浪士が江戸の街角で出会ったような状態になり、早速一緒に呑もうという話になった。名古屋駅裏の居酒屋で手羽先を食べながら焼酎を何倍もお代わりし、話は大いに盛り上がった。第 1 号合格者と一緒に酒を呑めば合格の確率が高くなると信じていたわけではないが、体験談を聞けるのは参考になり、その後も伊藤さんとは何度も呑み会を重ねた。呑むこと自体が自己目的化していったことも否めない。ともあれ、彼から教えてもらった ESI 社の CBAP EXAM PRACTICE TEST AND STUDY GUIDE という本を取り寄せて、勉強を始めたが、これが最初の章で、問題と解答の番号に食い違いがあり、答えが合わない。最初は自分が間違えているのかと思い、伊藤さんに相談したところ彼も印刷のミスであると言ってくれた。ESI 社に間違いを指摘するメールを送ったところすぐに対応してくれたが、これが、この問題集に対する信頼を失わせることになり、その後も答えが合わないと問題の不備があるのではないかと次から次へと問い合わせることになった。自分の判断だけでは心配なので伊藤さんにも相談しながら進めていったが、半分ぐらいは私の英語力不足などもあったが、半分ぐらいは問題そのものがあいまいなものであると判断していた。確信が得られないまま、すでにスケジュールしていた 8 月 7 日に CBT の受験をすることになった。

【CBT 受験】

午前中の受験時間だったので、名古屋に住んでいる私は前泊し、翌朝、白金高輪と麻布十番の中間あたりにあるテンプル大学に行った。受付で待っていると、なんと旧知の間柄である清水千博さんとぼったり出会い、受験は彼と二人で受けることがわかった。耳栓を持って行ったり、ペットボトルの水を持ち込んだり、先人たちの忠告は、忠実に守って準備したが、とても静かな環境で耳栓は必要なかったし、喉もそれほど渇くことはなかった。後で清水さんの合格体験記を読むと隣でマウスの音がガサガサと聞こえて集中できないと書いてあったが、あれは私のことで、申し訳ないことをしたと思った。途中で、一度だけシステムがハングすることがあったが、これも先人たちの体験記で十分備えができており、落ち着いて試験官にハングを伝え、自分はその間に余裕でトイレに行けた。1 時間ほど時間を残して、すべて回答できたので、ブックマークを付けておいた問題を最初から見

直した。たいして難しくもなく、英語もよく理解できたので、まず大丈夫だろうと思っていたら、不合格。ガツーンと一発やられた気分だった。終わってトイレに行くと清水さんとぼったり、彼は合格だったとのこと。一緒に祝杯を上げることができなくなった。清水さんには申し訳ないと思ったが、とても呑みに行く気分にはなれず、一人さみしく名古屋に帰った。

【CBT 再受験への準備】

3ヶ月後に再受験を申請することができるので、再び勉強をするしかない。何といてもいい教材が欲しい、そう思っていた。IIBA 日本支部が紹介してくれた SYBEX 社の日本語訳で上下 2 巻の受験対策本の英語版を取り寄せた。これを毎晩読み進め、問題集を解き、間違えているところを **BABOK 2.0 Guide** で調べるという先人達の勉強法を採用したのが一つ。二つ目は、清水さんが教材の開発がいい勉強になると言っていたのを思い出し、丁度その頃、社内のエンジニア向けに **BABOK** 概要の研修をやってほしいと会社から依頼を受けていたので、可能な限り **BABOK2.0** に忠実な教材を開発しようと考えた。3 つ目は、何といても英語力が足りないと感じていたので、2010 年に買って、ざっくりと目を通していた **Barbara Carkenord** の「**Seven Step to Mastering Business Analysis**」を毎朝、6 時ごろに起きて日本語に訳すことにした。この 3 つを再受験の受験対策として実施することにした。

11 月に入って再申請ができることになった。最初の試験は会社が受験料を負担してくれたが、一度失敗しての再受験なので、2 回目は自己負担にすべきだと考えて自分で負担した。再受験料の払い込みだが、国際郵便為替よりも **PayPal** の方が便利で手数料も安くなることがわかり、**PayPal** のアカウントを取って、振り込みをすることにした。**PayPal** のアカウントは無料で取得することができるので、私としてはこちらの方がお勧めです。certification@theiiba.org というメールアドレスに **PayPal** で支払いたいのですがどうすればいいか？と問い合わせのメールを送ると URL の入ったメールが送られてきて、その **Web** サイトには、既に支払い金額が入って請求されている状態になっていて、それをクリックするだけで **OK** となる。領収書もメールで送られてきた。後は、試験日をスケジュールするメールが届くのを待つのみだが、ほおっておくといつまでたっても返事が来ない可能性もあるので、頻繁に確認のメールを出す必要があります。

1 回目の受験は、会社の経理に頼んで国際郵便為替で申し込んだが、1 ヶ月たっても連絡がなかった。どうなっているのかと問い合わせたところ、メールがどこかに埋もれていたということがわかり、事務局のいい加減さにあきれた記憶があり、2 回目は、こうした目に合わないため、次々と頻繁に手続きの確認をし、ほぼ 1 週間に一度か二度、次に何をするか、あれはどうなっているかと頻繁に確認のメールを送った。日本にうるさいやつが一人いると思われていたに違いないが、ほったらかしにされてはたまらないので、こうするしかない。事務手続きに関する限り、**CBAP HANDBOOK** に書いてある手続き通りにスムーズに進むことはまずないと考える方が間違いないと思う。とにかく確実に受験できる状態になっていると確信できるまで確認の労を惜しんではならない。

SYBEX の問題集は、受験日の 2 週間前にすべて終わってしまったので、やるべき問題がもうな

い。SYBEXの問題集を始めからやり直したが、それでもまだ1週間は時間があつた。間違いだらけで恨めしく思っていた ESI の問題集を回答した後を消しゴムで消して再び挑戦することにした。すると、3 か月前と思うと自分の英語力が上がってきたのか、問題がまったく違った感じで伝わってきた。印刷間違いのところは別として、いい加減な問題だと思っていたのが実はそうではなく、じっくりと考えなくてはならない奥の深い問題であることがわかってきた。4 つの回答のうち正解を選ぶのだが、一見するとすべて正解に思える。もう少し条件を与えてくれたら本当の正解がわかるのにと思いつつもよくよく考えると正解度の高いものが見えてくる。そういう仕掛けになっていたということが分かってきた。問題の難易度で言うと SYBEX よりも ESI の方が、難易度が高いように感じた。しかし、それでも出題者の思い込みから作られているような問題も結構あり、そういう問題は、何度考えても正解を回答できない。それらの難解な問題を含めて直前にやった問題の正解率が約 75%。合格のボーダーラインぎりぎりかなと思った。ESI の問題集をこれから買う方は、私が相当な数のクレームを出し、その中のいくつかは、次のバージョンで改定すると言っていたので、改訂されたバージョンかどうかを確認して購入することをお勧めします。問い合わせの際には、Fumito Kondo の名前を出していただいても構いません。

【CBT 再受験】

12月11日の日曜日の午後、CBT 再受験となった。前泊の必要がないように午後のスケジュールを申請した。Handbook には、Web から予約するとあつたが、Web の予約は受験したい日が選択できたりできなかったり、何がなんだかよくわからなくて、私は、直接メールでキャッスルワールドワイドに申請して受験日を調整してもらった。会場につくと今回は一人だけの受験。静まり返った部屋で美女の試験官と二人きりで受験する。はじめの方は、ESI の問題集を数倍したほどの難解な問題が続いた。今回もダメだなと正直思った。あせりつつも難解な問題にブックマークをつけ、一問ずつ解いていく。次第に気持ちも落ち着いてきたのか、解答が見えるようになってきた。終わりに行くにしたがって難易度もどんどん下がっていくように思われた。1 時間を残し、最後まで辿りつき、ブックマークではなく、最初の問題からやり直した。はじめの方の問題に自信がなかったのですべてやり直す方がいいと考えた。よくよく見てみるとスペルを読み間違えているものもあり、最初はかなり緊張していたのだと思った。30 問ほど解答し、その後は、ブックマークのみを追いかけることにして、最後までたどり着いた。

ペットボトルも耳栓も持参したが、3 時間半、まったく使うことなく、ペットボトルも封を切ることもなく、試験は終わった。Submit のボタンを押す時は、心臓がつぶれそうな気持だったが、Congratulation の文字を見た時には、ほっとして体中の力が抜けた気持だった。これでようやく受験勉強から解放された。

【振り返って】

数々の失敗を乗り越えてようやく認定資格を取得することができた。振り返って思うことは、自分には業務経験が豊富にあるという自信こそが一番の障害になっていたように思う。BABOK のすぐれ

ていることは、世界のベストプラクティスを集めて体系化された知識モデルであるということだ。**BABOK** 自体が膨大な知識をコンパクトにまとめたモデルとなっている。自分の経験を信じることは重要だが、他人の経験に耳を傾けることはそれよりもさらに重要なことだ。謙虚さの欠如がここまでの苦勞を招いたと正直思う。

ここ数年は、**CBAP** の資格を取得することに力を注いできたが、今後は、**BA** という職種そのものを日本の社会に浸透させることに心血を注ぎたい。数多くの方々に **BA** の研修を受講していただいているが、日本にはまだまだビジネスアナリシスといった概念自体が存在していなくて、使う場がないという声が多い。**BA** の概念が日本の社会に定着しない限り、90 年代以降の日本のいい加減な **IT** 導入プロセスを改善することはできないと心底思っている。一人でも多くのビジネスアナリストを日本に作り、ビジネスアナリシスの概念を日本の企業社会に定着させ、日本の企業の第 2 段ロケットを点火させること。これを今後の私の目標にしたい。

<了>

2011 年 12 月 22 日